

1 人間くさいにほひを

人間くさいにほひをただよはせて
だんだんうすくなりながら
雲は山の方にのぼって行く
山頂の岩は青い空につながる

山頂の木は青い空につながる
こんどは 空から 木から 岩から
小さい雲がちぎれて下りはじめる
途中のかやぶきの家の窓の中で一人が本を読んでゐる

滝が落ちてゐる 橋がかかつてゐる
道で むかひあつて 人と人と話しあつてゐる
天下国家がそれらの人を支へてゐる
びくを持って 竿をかついで
ひたひたと土の音をさせながら
山の方に歩いて行く人も一人ゐる

2 君の土色の

君の土色の顔を残しておかう
そこだけでも充分に君なのだ
君の頭を抱きかかへて
切り取つて布につつんで血をきらう

頭の半分はすててしまふ
君の耳から前だけ残しておかう
しばらくすると生きてくる
俺は君の顔で面を作りあげる

怒鳴る声がいまにも出さうで
喰ひついたら離れることはないだらう
目の穴から火が出てくるだらう

夜中に君の貧婪は
風のやうに飛び出して行くだらう
ガラス棚の中に入れておくことにする

3 隊列の彼等は

隊列の彼等は前だけを向いて歩かなくてはならない
彼等の肩のシャベルは朝日にうすく光った
彼等が建物の影に入るとそれは鉄の色にもどった
女はもう一度彼等を見ようとしてさき廻りした

その中の一人の横顔をなほよく見ようとして
女の青い目は大きくひらかれた
隊列の彼等の姿が遠ざかると
女は自分の小さい家に帰った

ベッドでは女の夫が看視の疲れでぐつすりねむつてゐた
彼の囚人の一人が女を彼のねむつてゐる場所で
あたたかくおさへつけてゐたことを知らない

海の上は必ずどこかで波立ってゐた
隊列は畑の中を道にしたがつて
曲りくねりながら行つた